

(様式1)

令和3年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 031	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 OPUの現地実施に向けた技術的検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 OPUは、通常の採卵（子宮灌流）に比べ、子宮や卵管の状況に左右されないため、適応範囲の広い採卵方法である。 一方で、採卵には、専用プローブを用いた超音波画像装置や陰圧装置が必要である。これらの装置を稼働させるためには、100V電源が必要であり、超音波画像装置の画面は、暗い環境を必要とする。採卵後は、可能な限り、スピーディーに培養液に移行させる必要があり、ホルモン処置の種類によっては、採卵後の検卵に人的な熟度が求められる。また、酪農家からは農場内でOPUを実施して欲しいとの要望があるが、成績を低下させないためには、どこまでの作業を現地で行うべきかについても、検討の余地がある。 そこで、現地（農場）でOPUを実施するにあたって、作業環境、人的要件を補完する新技術、採卵された卵子の輸送するにあたっての保存液や時間等の輸送条件等について、調査することで、OPUの現地実施の実現と、採卵後の受胎成績の向上について、検討してほしい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	大家畜グループ
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) OPU技術の現地実証試験（令和2～6年度）		
対応の内容等	本県ではかながわ酪農活性化対策事業の柱のひとつとして、県内酪農家の優良牛を対象にOPUによる後継牛の生産の実証試験に取り組んでいます。現状では、安全な卵子採取や卵子の品質保持のために農場内でのOPUは実施していませんが、令和元年度からOPUの現地実施を視野に入れて採取された卵子の輸送方法について試験を実施しています。この試験結果をもとに現地でのOPUの実施の可能性について検討します。また、OPUで生産した胚の受胎成績の向上については凍結胚の受胎率向上について農研機構等の関係機関と連携して課題化を検討します。		
解決予定年限	①1年以内    ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考			